

選手の数

どちらかのチームが3名以下の場合、試合は無効試合とする

いずれかのチームの競技者が3人未満の場合、試合は開始されない。

交代要員の数に制限はない

最大7人までの交代要員を置くことができる。

交代要員の氏名が届けられている必要はない

すべての試合において、交代要員の氏名は、到着している、していないにかかわらず、試合開始前に主審・第2審判に届けられなければならない。それまでに氏名が主審・第2審判に届けられていない交代要員は試合に参加できない。

交代ゾーンのラインが引かれていないため、得点板のある味方ハーフ側のタッチラインのどこからでも交代することができる

- 他にフットサル競技規則に規定されていない限り、ピッチから出る競技者は、自分のチームの交代ゾーンから出る。
- 交代要員は、交代ゾーンからピッチに入る。

主審・第2審判

※（各フットサル大会の規定により）主審1名の審判員で試合を行う場合がある。

試合は、任命された試合に関して競技規則を施行する一切の権限を持つ主審と第2審判の2人の審判員によってコントロールされる。

副審（第3審判・タイムキーパー）は設置しない

—主審は、試合時間を計測する

—第2審判は、スコアボードで得点・累積ファウルを表示し、得点を記録する

—第2審判がない場合、主審は、スコアボードで得点・累積ファウルを表示し、得点を記録する

試合時間

試合時間は各フットサル大会の規定による

主審と両チームとが相互に合意しないかぎり、試合は、前、後半ともに20分間行われる。

ボールがアウトオブプレーになっても、時計を止めずに試合を続ける

- 次により、第7条の規定に基づく試合時間を確保する。
- ボールがアウトオブプレーになったとき、時計を止める。
- キックイン、ゴールクリアランス、コーナーキック、またはキックオフ、フリーキック、ペナルティーマークおよび第2ペナルティーマークからのキック、もしくはドロップボールの後、時計を正しく再スタートさせる。

主審が試合時間を計測し、笛で前後半の終了を知らせる

タイムキーパーは、笛やその他の音で前後半（延長の前後半を含む）の終了を知らせる。タイムキーパーの笛やその他の音を聞いた後、主審、第2審判のいずれかが、次の点を考慮しつつ、笛を吹いて前後半、または試合の終了を告げる。

各ハーフは、主審が終了の笛を鳴らす前のキックの行方を見た上で、主審が終了を決定する

- ボールが直接ゴールに入り、得点となったとき
- ボールがピッチの境界線を越えたとき
- ボールがゴールキーパーまたは他の守備側チームの競技者、ゴールポスト、クロスバー、またはピッチ面に触れた後、ゴールラインを越えた、あるいは得点となったとき
- 守備側ゴールキーパーまたは他の守備側チームの競技者がボールを止めたとき、またはゴールポスト、クロスバーから跳ね返り、ゴールラインを越えなかったとき
- 主審が笛を鳴らした後にファウルがあった場合、フリーキック、第2ペナルティキック、壁なしフリーキック、ペナルティキックは時間を追加して行い、キックの終了を主審が決定する

いずれかのゴールの方向にボールがプレーされたとき、主審、第2審判は、タイムキーパーが笛かその他の音を鳴らす前のプレーの行方を見なければならない。各ハーフは、次のときに終了する。

- ボールが直接ゴールに入り、得点となったとき
- ボールがピッチの境界線を越えたとき
- ボールがゴールキーパーまたは他の守備側チームの競技者、ゴールポスト、クロスバー、またはピッチ面に触れた後、ゴールラインを越えた、あるいは得点となったとき
- 守備側ゴールキーパーまたは他の守備側チームの競技者がボールを止めたとき、またはゴールポスト、クロスバーから跳ね返り、ゴールラインを越えなかったとき

チームは、タイムアウトを要求することはできない

チームは、前、後半それぞれ1回、1分間のタイムアウトを要求できる。

ハーフタイムは1分間とることができ、主審はハーフタイムの延長を決定できる

競技会規定には、ハーフタイムのインターバル時間を規定しなければならない。

中止された試合

どちらかのチームが3名以下の場合、試合は無効試合とされ、3名以下のチームに勝ち点0・失点3、相手チームに勝ち点3・得点3が記録される

試合が無効試合とされた後、3名以下のチームが4名以上となった場合、相手チームの合意があれば当日中に限りエキシビジョンマッチを設定することができる

競技会規定に定められていなければ、中止された試合は再び行われる。

累積ファウル（2ファウル制）

前後半を通じ、各チーム累積ファウル3つ目からの直接フリーキックは以下の方法で行う

- 第2ペナルティキック
- 第2ペナルティマークからキックを行う
- 壁なしフリーキック
- 第2ペナルティマークより前でファウルがあった場合、その場所から壁なしフリーキックを行うか第2ペナルティキックを行うかを選択する

- 競技者がペナルティーエリア外の、ピッチの味方ハーフ内の10mの仮想ラインとゴールラインとの間で、そのチームの6つ目のファウルを犯した場合、攻撃側チームはキックを第2ペナルティマークから行うか、違反の起きた場所から行うかを選択する。
- 6つ目の累積ファウルから、前、後半の終了時および延長戦の前、後半の終了時に行う直接フリーキックのために時間を追加することができる。

前、後半、それぞれ各チーム累積ファウル6つ目からの直接フリーキック
※（以下のその他の条文は競技規則通りに行う）